

いつまでも続く暑さをかこちつつ

葉月の暦ぱらりとほがす

(R)

## 秋の彼岸と収穫への感謝・・・

暑さ寒さも彼岸まで。季節の区切りの秋分の日を中日として前後三日間を彼岸と言います。此岸しがん(この世・現世)と彼岸(あの世・浄土)があり、亡くなった人がこちらに訪ねてくるという信仰から、お墓参りや法要をする先祖供養の風習があります。中日は昼夜の長さが同じになり、極楽浄土があるという真西へと太陽が沈みます。そういえば、最近まで、きれいな日の出や入日、お月様に手を合わせるおばあちゃん達がいました。

二丁目の浄願寺さんの墓地に、お日さまとお月さまが彫られた灯籠があります。お参りの方が蝋燭の火を入れると、持参した小さな四角い障子戸がはめ込まれるそうです。田圃をめぐる太陽と月のようで、代々自然を敬い、収穫に感謝する心を忘れないご先祖様の教えのようです。

稲刈りのシーズンになりました。今は機械化が進み大型コンバインに乗り、稲刈り・脱穀の作業が短時間で終わりますが、三十年前は家族総出の作業で、田圃はお祭りのように賑やかでした。はせがけの見事な出来栄えと息の合った作業の様子、小昼やおやつを広げた、青空の下での一服(休憩)は、多くの人の心に残る幸せな記憶です。

・・・

### 雷乃声を収む(かみなりこえをおさむ)

9月22日～27日頃

八百屋の店先にアケビが並ぶと彼岸です。ご先祖様が舟に乗って来るとい言い伝えがあり、仏前に供えます。中身の種と白い実を取って、ひき肉やきのこをつめて焼いたり、甘みそで炒めたりします。ほろ苦いおいしい郷土料理です。

春には木の芽でおいしく、秋につるを編んで高価な籠になります。(み)

### 蟻虫戸を壊さず(すごもりのむしとをとざす) 9月28日～10月2日頃

そろそろ昆虫たちが隠れる頃とはいいながら、昼でもいろいろな所から虫の声が聞こえてくる。たまにはミンミン蝉の声さえも。台風崩れの雨で庭の矢羽ススキが全て倒れて道路をふさいでしまった。車の邪魔にならないようにすぐ片づけながら季節の移ろいを感じた。(木霊)

### 水始めて涸れる(みずはじめてかれる)

10月3日～7日頃

十三夜の頃。月食の赤い満月も含め、数日間月見を楽しみました。

県産ブランド米「つや姫」も出始めご馳走になり、早速、娘に送ろうと米屋に行きました。途中友人に会うと、やはり親類に新米を送りに行くと言います。毎年この季節になると、普段は見えないものですが、絆を感じます。(M)



本町・萩の花 2014.9.25

読書会だより④

## 大石田の秋分のころ

七十二候より

大石田町立図書館

彼岸になりますと朝夕は、肌寒さを覚えます。昼夜の長さが同じ頃と申しますが、急に朝が遅く、夜が長くなった気がいたします。

田圃では、稲刈りが始まりました。山々の恩恵でしょうか、「大石田のお米は美味しいね。」と言われます。豊かな香りと上品な甘み、艶やかな新米のご飯が待たれます。萩の花も赤白きれいに咲きました。(M)